

日本経済新聞

9月25日

水曜日

安倍政権の経済政策「アベノミクス」を背景にした円安で輸出環境は好転している。積極的な財政出動で公共工事も拡大しており内需も刺激する。ただ、頼みの新興国景気には陰りもみえる。名古屋西のものづくりの集積地「メイニシ」は国内外の変化の荒波にどのように対応しているのか。

メイニシ

名古屋・製造業の町

▷上

インドネシアの首都ジャカルタ。外壁を覆うディスプレイがまばゆく光り、夜には「不夜城」と化すショッピングモールがある。8月、富裕層向けのこの施設に時計製造のナルセ時計（名古屋市中村区）の成瀬拓郎代表取締役の姿があった。

日本より3割高

目的の1つは、自身が手作りする和時計を販売する交渉だ。和時計は会社員を辞め、国内で唯一となる専門のゼンマイ式時計製造会社を起業した成瀬代表が復讐に取り組

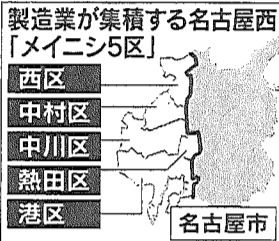
熟練の日本製、輸出攻勢



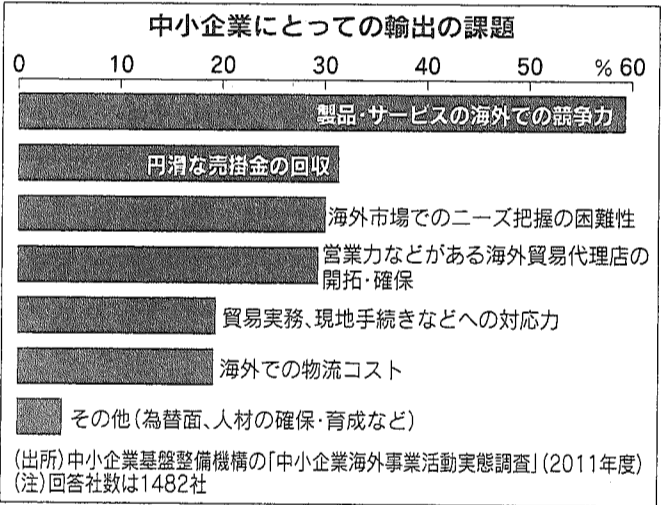
ナルセ時計の成瀬代表は和時計を手作りし、インドネシアで売り込む（名古屋市中村区）

む自慢の逸品。国内でも約100万円をつける時代の時を刻む。時刻間が、インドネシアでは3割高としても販売できる。季節によって時刻を刻む間隔が変わる「不定時」が魅力的に映る。道楽品もいろいろだ。新興国では日本の文化が魅力的に映る。

時計・包装、価格競争と一線



▼メイニシ 名古屋西を縦半分に割った西側で、製造業が集積する中川や港など5区を「メイニシ」と名付けた。経済産業省の工業統計調査によると、5区合計の製造品出荷額（2010年）は約1兆4700億円。全国に知られる東京都大田区の4730億円、大阪府東大阪市の9832億円を大きく上回る。港区単独で7405億円。



瀬代表 といふ。世界銀行によると、日本は国内総生産(GDP)に占める輸出額が約15%。先進国で日本より低いのは米国ぐらいで主要国では最下位クラス。韓国は50%に達している。国内の大企業は長く続いた円高時代に海外移管を進め現地調達を強めたことも一因だろう。ただ輸出は自動車産業な

ど一部の企業に偏り、高い技術を持つ多くの日本製品が「輸出する力」を発揮していない。その中で、メイニシの中小企業は日本の未開拓な部分に果敢に挑んでいる。中小企業基盤整備機構の2011年度の「中小企業海外事業活動実態調査」によると、中小は輸出の課題について「海外での輸出製品・サービス

の競争力」が回答の約6割を占めた。成瀬代表は「コスト削減に追われる下請けから脱して市場を創り出す努力が必要だ」。その鍵がメイド・イン・ジャパン。和成博社長はオーストラリアを皮切りに、同国以外への展開も模索する。これを契機に「日本政府が「クールジャパン」として積極的に売り込む日本食の輸出に役立てれば」(迫田技術部長)と夢も膨らんでいる。

食品向け包装材を手掛ける睦化学工業(名古屋市中西区)。迫田幸生技術部長は9月上旬にオーストラリアのシドニー郊外を訪れた。現地で牛肉やシーフードなどの冷凍保管施設に自社の急速冷凍技術を導入するため。今秋に装置を貸し出して試用してもらう。導入に成功すれば同社初の本格的な輸出だ。導電性包装材で食品を包み高電圧をかけるもので、食品の鮮度保持に力を発揮する。高電圧で水分を振動させて熱の伝導率を高め、急速に冷凍できるなどの効果がある。冷凍の際に食品の細胞を破壊する水の結晶を小さくできる。解凍時にはうまみ成分が流れ出るのを抑えられる。食品向け包装材大手と直接競争しては生き残り

は難しいとみて技術開発を進めた成果だ。昨年、画期的な包装に与えられた世界的に著名な「デュボン賞」銀賞を受賞した。和成博社長はオーストラリアを皮切りに、同国以外への展開も模索する。これを契機に「日本政府が「クールジャパン」として積極的に売り込む日本食の輸出に役立てれば」(迫田技術部長)と夢も膨らんでいる。「いつまでも需要があるわけではない」。水道用バルブを手掛ける前田バルブ工業(名古屋市中村区)の前田統統取締役は危機感を強める。「ここ最近、国による水道インフラの耐震化の推進などで需要は堅調だ。だが、最近の需要に安穩とせず、次の成長の担い手として輸出を探る1社だ。ターゲットは東南アジアだ。日本国内では水道の水の品質基準で給水装置から溶け出す鉛の許容量が厳格化されており、前田バルブは独自配合による鉛を使わずに済む銅合金を使い、環境配慮を進めってきた。この環境面で高品質を売り込めると期待する。東南アジアを回り、現地の需要動向の調査を進める前田取締役だが「高品質とコストのバランスが受け入れられるかが課題」という。鋳造から機械加工、漏水検査、組み立てを一貫して手掛け、少量生産にも対応できるものづくりの強みを生かせるかも成功の鍵を握りそつだ。